

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会（第 26 期・第 2 回）
議事要旨

日 時 令和 8 年 8 月 24 日（月）11：00 ～ 12：00

会 場 オンライン会議

出席者（五十音順）：利部委員、風間委員、小池委員、榊原委員、杉田委員、立川委員、
谷口委員、辻村委員（議長）、檜山委員、（以上 9 名）

議題等

- (1) IAHS Bureau Meeting について
- (2) IUGG 2027 in Korea について
- (3) IAHS Salvatore GRIMALDI 会長来日記念シンポジウムについて
- (4) 第 27 期 IAHS 小委員会について
- (5) IAHS 2026 年度表彰推薦について
- (6) その他

資料

1. 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会委員名簿
2. 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会（第 26 期・第 1 回）議事要旨
3. IAHS Bureau Meeting (2026 年 7 月 1 日) Agenda
4. IUGG 2027 in Incheon ホームページ
5. IAHS Salvatore GRIMALDI 会長来日記念シンポジウム Brocher および関連資料

議事要旨

- (1) IAHS Bureau Meeting について

議長より資料 1 に基づき、2026 年 7 月 1 日に開催された IAHS Bureau Meeting の概要に関し説明がなされた。その中で、IAHS Bureau に関し、従来各コミッションの役割が大きく、コミッションからの報告等に時間を要していたところ、それがなかった点、IAHS のホームページに掲載される各コミッション等の紹介文が Statement という形で共通のフォーマットに統一されたこと等が概説された。また、2026 年 10 月にインドのルールキーにおいて開催された IAHS Scientific Assembly 2025 India において、各コミッション主催のパラレルセッションの形式がなくなり、1 会場において Plenary Presentation を中心に口頭発表が行われ、個別発表はポスターと 2 分間のフラッシュ・トークにより行われた旨についても説明があった。その上で IAHS が、各コミッション主導から、プロジェクト、プログラム主導へとその運営方針を転換している傾向があることも議長より報告された。

(2) IUGG 2027 in Korea について

議長より資料4に基づき、2027年7月16日～22日に韓国インチョンにおいて開催予定の IUGG 29th General Assembly について概要の説明があり、2026年10月から Abstract 申し込み、Early Registration が開始される予定である旨等の説明があった。また、複数の Association に係るセッション提案の募集があり、IAHS 本部に対して、ICT (International Commission on Tracer) から、“Multiple tracer approaches across disciplines in Geoscience”を提案している旨の報告があった。

(3) IAHS Salvatore GRIMALDI 会長来日記念シンポジウムについて

議長より資料5に基づき、2026年8月17日、東京大学工学部において沖委員らの尽力により開催された “IAHS President Visit to Japan Commemorative Symposium” について、講演者を含め、対面参加者16名、オンライン参加者17名があったこと等、概要の報告がなされた。とくに、Grimaldi 会長から、IUGG 2027 への参加要請に加え、2027年1月11日～17日に中国寧波市において開催される “2027 IAHS Academy (主に Modeling and Simulation)” に関し、特に若手研究者・大学院生等への参加が推奨された（申込期限：2026年9月30日）点について報告があった。加えて、Grimaldi 会長から特に若手研究者に対し Vision を持って研究を進めてほしい旨のメッセージが強く発せられた点、また Academic Community と各種 Stakeholder との関わりが重要である旨繰り返し強調された点についても説明があった。

また基調講演を行った小池委員より、Scientific Knowledge から Solution in Society への連携が重要である点に関し、小池委員の報告と Grimaldi 会長の報告において、結果的にメッセージが同期していた点についても発言があった。加えて、若手研究者の一人として発表した榊原委員から、基調講演はきわめて勉強になった旨、また Grimaldi 会長による Vision に関わるメッセージが強く印象に残った点についても言及があった。

(4) 第27期 IAHS 小委員会について

議長より、2025年10月に開催された第26期・第1回 IAHS 小委員会において、水文関連学会と IAHS 小委員会との対応は複雑であること、IAHS 小委員会は水文関連学会の緩やかなハブとしての役割があること等を踏まえ、当小委員会としては当面現状の形態を維持することを決定した旨の確認があった。その上で、議長より次期小委員会委員の構成員に関し、分野のバランス、年代のバランス、ジェンダーのバランス等を勘案して決めていきたい旨提起された。これに対し、檜山委員より近年社会水文学分野の重要性が増している状況に鑑み、同分野の委員を加える提案がなされた。また、谷口委員から関連学協会との連携を図る上でもでき得る限り関連各学協会

から構成員が出るよう配慮した方が良いのではないかという意見が出された。加えて議長から、特任連携会員が小委員会の委員長を務めることについて問題提起されたところ、小池委員より比較的中堅や若手の研究者に積極的に役割を果たしてもらう意味において、特任連携会員が小委員会等の委員長を務めることはむしろ前向きに捉えて良いのではないか、という意見が出された。

以上の意見を考慮しつつ、議長と各委員との間で今後次期小委員会委員の構成についてさらに検討していくことが確認された。

(5) IAHS 2026 年度表彰推薦について

2026 年 12 月末締切の、IAHS International Prize に関し、今年度も推薦する方向で検討と準備を進めることが確認された。

(6) その他

特になし。